

2026年2月21日(土)

老球の細道906号

青天の霹靂(へきれき)

会津バスケットボール協会 室井 富仁

中国の南宋の詩人陸放翁が病気にかかっていた秋のある日、ふいに、好きな酒の勢いに乗じて筆を走らせた。その勢いを、彼は自らの詩の中で「青天、霹靂を飛ばす」と、青空に突如として鳴り渡る雷で表現したのである。以来、この言葉はよく使われるようになり、突発の重大事件、急激な大変動を形容するようになった。私もどういいうわけか青天の霹靂、とうとうなっちゃいました！食道がん、ステージI or II。

昨年(2025年)の10月21日(火)の定期健康診断の胃カメラ検査で見つかった。健康診断は毎年きちんと受診して十分注意をしてきた。1昨年の胃カメラ検査でも「異常なし」の診断だったので、私の年齢になれば1年でがん細胞はできないだろうと安心していただけなのに？

昨年、定期健康診断で胃カメラを受診する前日、知人から思わぬ話を聞いてしまった。知人も毎年定期健康診断で胃カメラを受診し、今まで「異常なし」で無事通過して来たのに、昨年突然胃がんが見つかったという。運よく初期だったので内視鏡手術で無事終了した。その話を聞いてから「他人に起こりえることは私にもありえる」とふと不安がよぎった。

普通ガンの診断は怪しい細胞を見つけたら内視鏡でその細胞を切り取り、病理診断などでさらに調べて、本物のがん細胞かどうかを確認する。その確定診断が出るまで通常2～3週間ほどかかる。私は人間ドックを受診するようになって、今まですい臓がん、腎臓がん、肝臓がん、胃がん、食道がんなどで「要精検」「細胞診検査」などと診断されてきたが、いずれもセーフで今まで生きて来た。しかし、今回は神様は私を見逃さなかった。

私の父、祖父、叔父、叔母たちなどガンに患って死んでいる人は多い。だから私も恐らく何らかのガンにかかるのではないかという不安は常に持っていた。年を経ることに無事でいられるということは、これから見つかる確率が高まっていくということである。厚生労働省の統計によると現在日本人の2人に1人はガンにかかると言われ、ガンは今や日本人の国民病となっているという。話して見ると身の回りにガンを患い、克服している人がたくさんいる。

2025年10月21日(火)に主治医から食道ガンを告知されてから竹田病院を紹介され、胃カメラ、CT検査、PET検査などで治療方針が決定した。11月から26年1月まで1週間の抗ガン剤治療入院を3回行い、1月26日(月)手術入院し、28日(水)手術(7時間)。そして2月19日(木)無事退院となった。

退職してからは「悠々自適」でのんびりと過ごすなどと吹聴していたが、現役時代、選手をいじめ、家族をないがしろにしていた私を神様は見逃しはしない。脊柱管狭窄症手術、食道ガン手術と次から次へと試練を与えてくれる。

私の永遠のテーマは「いざという時に自分を見失わない」ということである。ガンを告知された時はひととき死を意識したが、死はガンでなくとも皆平等にやって来る。生かされているうちは生き続けよう。楽しく生き続けよう。書き続けよう。バスケし続けよう。